

## 4. 研究協議

討議の柱を「個に応じた指導過程の工夫」「評価と指導の一体化」とし協議を進めた。小学校の算数については、教材の提示の仕方や指導過程の工夫に様々な考え方を導き出せること、また同時間接指導を積極的に取り入れることの有効性が話題に挙がった。中学校の総合的な学習の時間については、子どもの見取りと支援のあり方や、小中併置校の特性を生かし9カ年のカリキュラムを構築することの必要性についてなど議論が深まった。

### 第8分科会 羅臼町立知円別小中学校



## 1. 研究主題

「生きる力につながる学力の育成～基礎・基本の確実な定着を目指して～」

## 2. 研究内容

研究仮説を「各教科の基礎・基本を授業内で確実に定着させれば、生きる力につながる学力が育成されるであろう。」と設定し、そのための方策として次の2点を設定した。〈方策1〉では、「効果的な発問・指示」、〈方策2〉では「定着のために行なう授業内での評価と支援」である。

〈方策1〉の「効果的な発問と指示」については主として授業内で子どもに身に付けさせたい学習内容やつけさせたい力をつけるためには、どのような発問・指示が効果的かを研究した。特に複式の授業では、間接指導の際に児童が自ら学びを進められるような授業の工夫も合わせて研究を行なった。

〈方策2〉の「定着のために行なう授業内での評価と支援」では、授業の目標に照らし合わせて評価規準を設定した。そして授業内ですべての子どもが規準を達成するように、つまづきを想定してそのための手立てを研究した。

以上2つの方策とともに、全ての学力の土台となる「読み・書き・計算」の定着のための取り組みも

あわせて継続研究を行なってきた。

## 3. 公開授業

【特設授業1】小学校算数科1年生「ふえたりへったり」、2年生「ひっ算のしかたを考えよう」(畑山聡美教諭)1年生は足し算と引き算の混合計算の仕方を、ネコがバスに乗ったり降りたりする様子を自分たちで行いながら考えた。計算の順序を考える場面ではタイルなどの具体的な操作を伴いながら、その方法を児童が発表していた。2年生では繰り下がりの2回ある計算の仕方を考えた。児童が一人しかいない中、位取りの数カードを操作しながら筆算の仕方を考えていた。

【特設授業2】中学校道徳1・2年生「いのちの誕生」(三浦晶子教諭)授業の導入では、生徒が妊婦体験キットを装着して妊婦の生活を体験した。そのあと、「夫として妊婦のためにできることは何だろう」というテーマで話し合いが行なわれた。生徒たちはタバコの害や食生活についても考えを交流していた。授業の最後には、生徒が生まれた時のことが書かれた母親からの手紙を受け取り、授業の感想を発表した。

【公開授業】小学校算数科3年生「あまりのある割り算」、4年生「三角形のなかまを調べよう」(龍本英紀教諭)3年生ではあまりのある割り算の習熟、4年生ではいろいろな三角形をグループ分けする中で二等辺三角形と正三角形について、辺の長さに着目し、それらの性質について考える学習を行なった。

## 4. 研究協議

特設授業1では、具体的な操作をしたことで「のる」「おりる」と言う動作が、「たす」「ひく」という考えに結びついていった。授業の最後に学習したことを確認する場面があるとよかった。2年生でも数カードを使って繰り下げを視覚的にとらえ、考えることができた。特設授業2では、妊婦の大変さや周りのサポートについて生徒がよく考えられていた。保護者からの手紙も「見守られている」という気づきを促すいい教材であった。しかし授業を通して「命の大切さ」により迫るために、生徒が頭ではわかっていることを問題意識を持って考えさせる手立てがもっと必要であった。

小中併置校の利点を生かした教育活動、つけさせたい力を明確にした授業づくり・指導計画等、研究実践が子どもの姿となって現れていた。今後の課題として、これまでの実践を生かしながら、子どもがその子ならではの考え方・わかり方を大切に指導があげられた。